大阪商業大学学術情報リポジトリ

# オンデマンド型英語授業の効果検証の試み
## ―苦手意識の変化を対面授業と比較して―



| メタデータ | 言語: Japanese |
| --- | --- |
| | 出版者: 大阪商業大学商経学会 |
| | 公開日: 2021-11-02 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 吹原, 顕子, FUKIHARA, Akiko |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/1074 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

# オンデマンド型英語授業の効果検証の試み
## ―苦手意識の変化を対面授業と比較して―

吹　原　顕　子

1. はじめに
2. 研究の目的
3. 研究方法
4. 結果
5. 考察

### 1．はじめに

COVID-19感染症拡大を抑制するため、2020年４月７日に緊急事態宣言が発出され、それに伴い教育はオンラインによる遠隔授業を余儀なくされた。英語の指導方法にも大きな転換を迫られた。本学では、学生の通信環境に配慮し、スマートフォンの使用を前提として授業支援システム manaba course によるオンデマンド型授業を実施することとなった。後期には対面授業が開始されたが、12月に入って再び感染者数が増大し、大阪府は大学にも不要不急の外出を自粛するように要請した。その結果、４月に入学した学生は、１年間30回の英語授業のうち３分の２をオンラインで受講することになった。

対面授業からオンライン授業になったことが、英語学習に苦手意識をもつ学生にどのような影響があったのだろうか。加賀田ら（2007）は2006年に入学した１年生820人に英語学習についての調査（４件法）を行い、英語ができるかという質問に対して、「できない」、「どちらかといえばできない」と答えた学生が85.1％であった。習熟度別の下位クラスにおいて、その割合は94.6％に上った。吹原（2017）は2016年に入学し基礎コース[1)]で英語を学ぶ１年生54人に対し英語学習への苦手意識について尋ね、85.2％の学生が「とても苦手」「どちらかといえば苦手」（５件法）と答えた。2020年度の一つの英語授業を取り上げ、2019年度の授業と比較することによって、その効果の検証を試みたい。

１）吹原（2017）は、初回授業で読解力と聴解力を測定し、基礎コースの学生の英語力を英検３級から５級と推定した。

## 2．研究の目的

2019年に入学し1年を通して対面授業で英語を学修した1年生と、2020年に入学し3分の2をオンデマンド型オンライン授業で英語を学修した1年生の4月と翌年1月の英語学習に対する苦手意識等の変化を比較検証する。

## 3．研究方法

### 3-1　質問紙調査

#### ⑴　質問紙調査

英語学習への苦手意識、つまずき、感情的対応、重要性について質問紙調査[2)]（18項目、5件法、付表参照）を前期の第1回授業と後期の第15回授業後に行った。2019年度は紙面で、2020年度は授業支援システムのアンケート機能を使用して実施した。

#### ⑵　自由記述

前期の第15回授業と後期の第15回授業の後に、授業内での活動について5段階の評価をさせ、複数の質問に対して自由記述で回答させた。今回の報告では、それらの質問の中から以下の5つを取り上げる。

①　2020年度前期授業の振り返り[3)]

質問1：リピーティング（英語を聴き、それを声に出して繰り返す活動）をした感想を教えてください。

質問2：前期の授業を受けて、英語学習についてあなた自身に変化がありましたか。変化があったとすれば、どのような変化か教えてください。

質問3：前期の授業を受けた感想、困っていること、今後してみたいことなど、自由に書いてください。

②　2020年度後期授業の振り返り

質問1：オンラインでの多読・多聴[4)]に参加した人は体験した感想を、参加しなかった人はその理由を教えてください。

質問2：英語の授業や英語学習について、感じていることを自由に書いてください。

### 3-2　研究協力者

4年制私立大学1年生 英語Ⅰ A･B（基礎コース）を受講している258人のうち、4月と翌

2）苦手意識につながる原因を探るため、ベネッセ教育総合研究所（2010）の「調査票見本（生徒調査）」Ⅳ15を参考にして質問項目を作成した。その際、単語を記憶することが難しいと感じる原因について知る項目を追加した。さらに英語学習の重要性と感情的反応についても尋ねた。

3）「英語Ⅰ Aにおけるオンライン授業の取り組み」（吹原 , 2020）に前期の実践とともに報告している。

4）オンラインを利用した多読・多聴の取り組みについては、「『英語Ⅰ B』授業における manaba の活用―オンライン教材の無料体験を利用した多読・多聴の活動―」（吹原 , 2021）で報告している。

表１　協力者人数（年度・専攻別）

| 年度 | 2019年度 | | | | 2020年度 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科 | 経営 | 商 | 公共 | 計 | 経済 | 経営 | 商 | 公共 | 計 |
| 協力者数（人）<br>（受講者数） | 17<br>(33) | 32<br>(35) | 25<br>(33) | 74<br>(101) | 31<br>(42) | 17<br>(40) | 20<br>(33) | 15<br>(32) | 83<br>(147) |

年１月の質問紙調査の両方に回答した157人である。年度、専攻を表１に示す。

### 3-3　指導実践

使用した教科書、扱った単元、指導形態、指導内容、試験について、表２にまとめた。

#### 3-3-1　教科書

2019年度は12単元、2020年度は10単元を学修した。教科書が改訂されたため、同じ教科書を使用することができなかったが、2020年度に扱った10単元のうち７単元が2019年度と共通している。いずれの教科書も、１単元は４頁からなる。単元の最初の頁にある９枚のイラストは、２頁目の英文テキストの内容を示している。各イラストに１行の英文キャプションを作成し、それを「あらすじ」とした。３頁目、４頁目は読後の練習問題である。

#### 3-3-2　指導内容

**(1)　単元の第１時**

①　多読／多読・多聴

授業の最初に、主としてLeveled Readersを使用した多読活動を15分間行った。2019年度は、授業内多読を24回行った。2020年度前期は多読を実施できず、後期になってLeveled ReadersとG-Talk[5)]を使用して15分間の授業内多読・多聴を９回実施した。オンライン授業に戻り、Oxford Reading Club（https://www.oxfordreadingclub.jp/）の無料体験を利用して読むことができる６冊のうち３冊を読むことを課題とした。

②　Guess What

スクリーンに映された物と語句を、ペアの一方が非言語情報も使用しながら表示された語句を使わないで、それを見なかった相手に説明し、相手にそれが何かを答えさせる。役割を交替して２回目を行う。ペア活動のアイスブレイクであると同時に、テキストと関連のある語句を選ぶことで導入の役割も果たす。

③　オーラルイントロダクション

教科書の９枚のイラストを実物投影機でスクリーンに提示し、学習者とやり取りをしながら英語でストーリーを把握させた。オンライン授業ではいきなり英文を読むことから始めるため、自力で読むことが難しい学生のために解説する紙面を設けた。

5）G-Talkは充電池式音声ペンで、本に貼付したシールをスキャンしmicroSD内に保存したその本の音声を聴くものである。令和２年度大阪商業大学教育活動奨励助成費を受けて購入した。

表２　英語ＩＡ・Ｂの指導の概要

| 年度 | 2019年度 | 2020年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| 授業 | 英語ＩＡ・Ｂ　30回 | 英語ＩＡ　第１～15回 | 英語ＩＢ　第１～10回 | 英語ＩＢ　第11～15回 |
| 形態（時間） | 対面（90分） | オンライン | 対面（60分）・オンライン | オンライン |
| 教科書 | *Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader*（2nd ed.） | *True Stories: Level 1A, Silver Edition* | | |
| 単元 | Unit 1 – 12 | Unit 1 – 5 | Unit 6, 10, 13, 15 | Unit 17 |
| 単元 第1時 | 前単元末 読後問題解答 | | 対 前単元末 読後問題解答 | |
| | 多読 | | 対 多読・多聴 | 多読・多聴（Oxford Reading Club 無料体験[4]） |
| | Guess What（ペア） | | 対 Guess What（ペア） | |
| | オーラル・イントロダクション | 解説（紙面） | 対 オーラル・イントロダクション | 解説（紙面） |
| | あらすじ英文整序（ペア） | あらすじ英文整序（個人） | 対 あらすじ英文整序（個人） | あらすじ英文整序（個人） |
| | 音読（リピーティング／リズム読み） | 音読（前半・リピーティング） | オ 音読（リピーティング） | 音読（リピーティング） |
| | 穴埋め音読 対面チェック（動詞句、前置詞、接続詞） | 音読録音提出（前半） | オ 穴埋め音読録音提出（動詞句、前置詞） | 穴埋め音読録音提出（動詞句、前置詞） |
| 単元 第2時 | 多読 | | 対 多読・多聴 | 多読・多聴（Oxford Reading Club 無料体験） |
| | Guess What（ペア） | | 対 Guess What（ペア） | |
| | 穴埋め音読練習（主語、目的語） | 音読（後半・リピーティング） | 対 穴埋め音読練習（主語、目的語） | 音読（リピーティング） |
| | リスニング（テキスト本文穴埋め） | リスニング（テキスト本文穴埋め） | 対 リスニング（テキスト本文穴埋め） | リスニング（テキスト本文穴埋め） |
| | 穴埋め音読 対面チェック（主語、目的語） | 音読録音提出（後半） | オ 穴埋め音読録音提出（主語、目的語） | 穴埋め音読録音提出（主語、目的語） |
| | 単元末 読後問題 | 単元末 読後問題 | オ 単元末 読後問題 | 単元末 読後問題 |
| あらすじ | リプロダクション／リテリング（前・後期各２回 ３単元から選択 ４人組→３人組→ペア→個人） | | 対 リプロダクション／リテリング（１回 ２単元から選択 ３人組） | リプロダクション／リテリング（１回 ３単元から選択 個人３分割） |
| 試験 | 筆記試験（前・後期各２回 ３単元ごと） | オンライン試験（１回 ５単元） | 筆記試験（１回２単元） | オンライン試験（１回 ３単元） |

対 対面授業内の活動　オ オンライン

④　あらすじ英文整序

2019年度には、ペアに各キャプションを印刷した9枚の紙片を1セット渡し、協力して絵の順に並べさせた。2020年度の対面授業では、各自に1セットを与え並べ替えさせた。オンライン授業では9枚のイラストとランダムに並べた英文ⓐ～ⓘを示し、授業支援システムの小テスト機能を使って解答させた。

⑤　音読

2019年度は、センスグループのチャンクで区切って繰り返すリピーティングと、文中の強勢のある語に拍を置くリズム読みを行った。2019年度に実施した結果からリピーティングの方が学生にとって負荷が小さいと考えられたので、オンライン授業ではチャンクでのリピーティングと1文の通し読みができるように2種類の音声を用意した。前期は授業支援システムや録音について学生が不慣れなため、1回の練習をあらすじの4～5行とした。

⑥　穴埋め音読 対面チェック／音読録音提出

2019年前期は、動詞（句）を空欄にしたあらすじの英文を見て、動詞（句）を補って音読させた。後期は、前置詞、接続詞も空欄とした。Unit 1～3は4人組、Unit 4～6は3人組、Unit 7～12はペアで9行の英文を分けて、指導者の前で音読させた。2020年度は後期から始めることになり、動詞（句）と前置詞を補う形で行った。対面チェックの代替としてスマートフォン等で9行の穴埋め音読を録音させ授業支援システムのレポート機能を使って提出させた。

**⑵　単元の第2時**

①　多読／多読・多聴

②　Guess What

③　穴埋め音読練習（主語、目的語）

単元の第2時は、動詞（句）や前置詞を残し、主語や目的語を補って読ませた。文構造を意識させることを意図した。

④　リスニング

あらすじにはなかった情報を中心に、テキストの英文に10か所程度の空欄を設け、学生に聞き取らせた。学生はここで初めてテキスト全文に出合う。

⑤　穴埋め音読 対面チェック／音読録音提出

2019年度は第1時と同様に、Unit 1～3は4人組、Unit 4～6は3人組、Unit 7～12はペアで9行の英文を分けて、指導者の前で音読させた。2020年度は対面チェックの代替としてスマートフォン等で9行の穴埋め音読を録音し提出させた。

⑥　単元末 読後問題

穴埋め音読が早く終わった学生から取り組むように指示した。授業内でできなかった箇所は家庭学習とし、次時の始めに解答を確認した。オンライン授業の場合は、授業支援システムの小テスト機能の自動採点を使用し、学生がすぐに解答を確認できるようにした。

**⑶　リプロダクション／リテリング**

3単元から一つを選び、9枚のイラストの絵を見ながら単元のストーリーを語る活動である。1枚の絵につき3語までメモをしてよいこととした。2019年度は、9枚のイラストを4人で分担しリレー形式で話すことから始めて徐々に人数を減らし、最終的には一人でストーリーの全部を語った。後期は、ストーリーの後に自分の考えを話すようにした。2020年度は、後期に2単元を終えたところで、3人組で実施した。最終課題はオンラインになったため、9枚のイラストを見てあらすじを再現する、あるいは自分の言葉でストーリーを語る映像を3回に分けて録画し提出させた。

**⑷　試験**

2019年度は3単元ごとに筆記試験（前期定期試験・学年末試験を含む）を行った。2020年度は、5単元で前期定期試験をオンラインで行った。後期に入って2単元を終えたところで筆記試験を行った。その後、対面授業の2単元とオンラインの1単元をオンラインの学年末定期試験とした。

## 4．結果

### 4-1　質問紙調査

2019年度、2020年度の入学時と1年次終了時の「01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」の回答の割合（単位%）は図1のようになった。入学時の「とても苦手」「やや苦手」を合わせると、2019年度は74人のうち64人（86.5%）、2020年度は83人のうち75人（90.4%）で

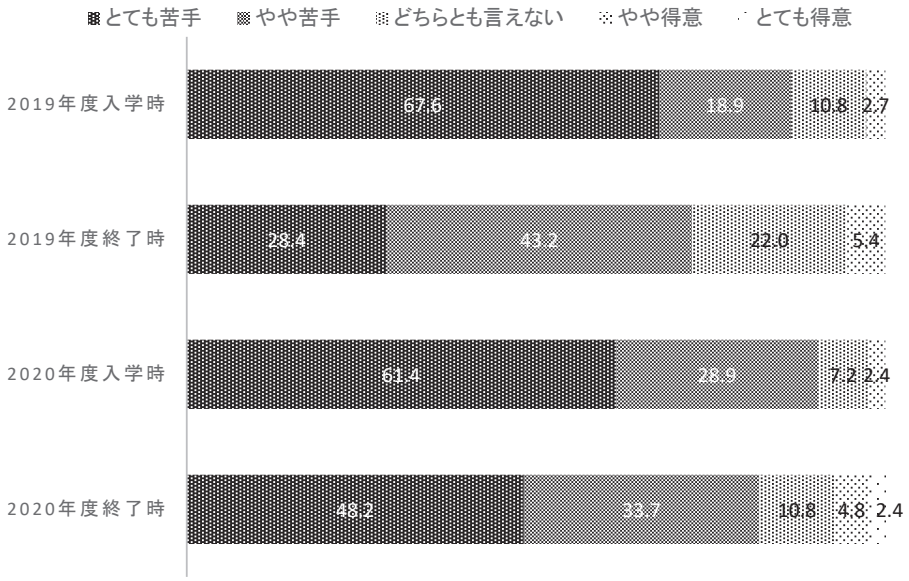


図1　入学時と1年次終了時の苦手意識の割合

表３　英語学習への苦手意識等に関する質問紙調査の記述統計量

| | 入学時 | | 1年次終了時 | |
|---|---|---|---|---|
| | 2019年度（$n$ = 74） | 2020年度（$n$ = 83） | 2019年度（$n$ = 74） | 2020年度（$n$ = 83） |
| | $M$($SD$) | $M$($SD$) | $M$($SD$) | $M$($SD$) |
| 1 英語を勉強することは楽しい | 2.22（1.02） | 2.70（1.18） | 3.12（0.91） | 3.17（0.95） |
| 2 英語を勉強することは必要だ | 3.97（1.02） | 4.28（0.92） | 4.26（0.68） | 4.34（0.70） |
| 01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか | 1.49（0.80） | 1.51（0.74） | 2.05（0.86） | 1.80（0.99） |
| 02 単語をどのように発音したらよいかわからない | 3.64（1.00） | 3.41（1.04） | 3.19（0.99） | 3.55（0.94） |
| 03 単語の発音を覚えるのが難しい | 3.72（1.05） | 3.54（0.98） | 3.12（0.96） | 3.64（1.03） |
| 04 単語の綴りを覚えるのが難しい | 4.00（0.88） | 3.76（1.04） | 3.58（1.11） | 3.86（1.01） |
| 05 単語の意味を覚えるのが難しい | 3.95（0.94） | 3.81（0.97） | 3.36（1.17） | 3.78（1.04） |
| 06 文法が難しい | 4.49（0.82） | 4.61（0.54） | 4.19（0.86） | 4.41（0.68） |
| 07 英語の文を書くのが難しい | 4.59（0.79） | 4.51（0.76） | 4.09（1.02） | 4.30（0.81） |
| 08 英語の文章を音読する時に、どのように発音してよいのかがわからない | 3.86（1.00） | 3.63（0.93） | 3.07（1.08） | 3.51（0.99） |
| 09 英語の文章を読んで理解するのが難しい | 4.27（0.82） | 4.19（0.89） | 3.55（1.00） | 3.76（0.92） |
| 10 英語を話すのが難しい | 4.23（0.88） | 4.17（0.99） | 3.82（0.90） | 4.07（0.85） |
| 11 英語を聞き取るのが難しい | 4.11（0.89） | 4.12（0.98） | 3.43（1.04） | 3.71（1.08） |
| 12 外国、異文化に興味がもてない | 2.66（1.21） | 2.49（1.11） | 2.51（1.06） | 2.54（1.25） |
| 13 英語のテストで思うような点数がとれない | 4.09（0.85） | 4.30（0.84） | 3.00（1.01） | 3.61（0.96） |
| 14 英語に対して抵抗感がある | 3.15（1.20） | 3.27（1.29） | 2.69（1.13） | 3.23（1.16） |
| 15 英語に限らず自分からすすんで勉強する習慣がない | 3.92（0.96） | 3.77（0.93） | 3.62（0.98） | 3.59（1.03） |
| 16 英語に限らず、勉強する気がわかない | 3.28（1.10） | 2.98（1.01） | 3.14（1.15） | 3.05（0.96） |

$M$ = 平均，$SD$ = 標準偏差

あった。

2019年度入学時には50人の（67.6％）が「とても苦手」と答えたが、終了時には21人（28.4％）に減少した。2020年度に「とても苦手」と答えた学生は、51人（61.4％）から40人（48.2％）への減少にとどまった。このことは、苦手意識の強い学生にはオンライン授業の効果が小さかったことを示唆している。

一方、「やや得意」と答えた学生は、2019年度には２人（2.7％）から４人（5.4％）に増加した。2020年度は「やや得意」と答えた学生は２人（2.4％）から「やや得意」（４人）と「とても得意」（２人）を合わせて６人（7.2％）へと増加したことから、オンライン授業は学生に自律的な学習を促す一面もあった。

英語学習への苦手意識等に関する質問紙調査の記述統計量を表３に示す。「01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」から「16 英語に限らず、勉強する気がわかない」までの16項目の信頼係数は、2019年度入学時 $\alpha$ = .82、１年次終了時 $\alpha$ = .81、2020年度入学時 $\alpha$ = .77、１

表4　英語学習への苦手意識等の入学時と1年次終了時における2019・2020年度の比較

| | 入学時 | | | 1年次終了時 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | *U* | *p* | *r* | *U* | *p* | *r* |
| 1 英語を勉強することは楽しい | 2375.00 | .011 | .20 | 2333.00 | .007 | .21 |
| 2 英語を勉強することは必要だ | 2497.00 | .029 | .17 | 2827.00 | .345 | |
| 01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか | 2945.00 | .601 | | 1936.50 | .000 | .34 |
| 02 単語をどのように発音したらよいかわからない | 2711.00 | .185 | | 2667.00 | .138 | |
| 03 単語の発音を覚えるのが難しい | 2751.50 | .239 | | 2342.00 | .007 | .21 |
| 04 単語の綴りを覚えるのが難しい | 2712.50 | .182 | | 2804.50 | .328 | |
| 05 単語の意味を覚えるのが難しい | 2815.00 | .341 | | 2425.50 | .018 | .19 |
| 06 文法が難しい | 2978.50 | .700 | | 2216.00 | .001 | .27 |
| 07 英語の文を書くのが難しい | 2790.50 | .231 | | 2346.50 | .005 | .23 |
| 08 英語の文章を音読する時に、どのように発音してよいのかがわからない | 2625.50 | .100 | | 2181.50 | .001 | .26 |
| 09 英語の文章を読んで理解するのが難しい | 2949.50 | .642 | | 1940.00 | .000 | .34 |
| 10 英語を話すのが難しい | 3026.50 | .865 | | 2326.00 | .005 | .22 |
| 11 英語を聞き取るのが難しい | 2957.50 | .669 | | 1919.00 | .000 | .34 |
| 12 外国、異文化に興味がもてない | 2897.50 | .528 | | 3070.00 | .997 | |
| 13 英語のテストで思うような点数がとれない | 2623.00 | .090 | | 1024.00 | .000 | .60 |
| 14 英語に対して抵抗感がある | 2876.90 | .481 | | 2261.50 | .003 | .23 |
| 15 英語に限らず自分からすすんで勉強する習慣がない | 2758.00 | .240 | | 2798.00 | .311 | |
| 16 英語に限らず、勉強する気がわかない | 2629.00 | .107 | | 2852.50 | .425 | |

*U* = マン・ホイットニーのU，*p* = 漸近有意確率（両側），*r* = 効果量

年次終了時 $\alpha = .75$ であった。

コルモゴロフ・スミルノフ検定により正規性が満たされなかったため、入学時及び1年次終了時において2019年度と2020年度を比較するためにマン・ホイットニーの検定を行った（表4）。

入学した時点では「1 英語を勉強することは楽しい」、「2 英語を勉強することは必要だ」の2項目において5％水準で有意な差が認められ、2020年度の学生の方が高かった。苦手意識等については有意な差は認められなかった。

1年次終了時では、12項目において有意差が認められた。「1 英語を勉強することは楽しい」は依然として2020年入学の学生の方が高かった。残りの苦手意識等についての11項目においては2019年入学の学生の方が「難しい」と感じる度合いが有意に低かった。特に「13 英語のテストで思うような点数がとれない」は効果量 $r = .60$ で、2019年度の学生の方が2020年度の学生よりも試験に対しての苦手意識を感じる度合いが有意に低く、その差が大きいことを示している。

次に、2019年度、2020年度のそれぞれの年度における学生の変容を知るためにウィルコク

表５　英語学習への苦手意識等の変化（入学時 －１年次終了時）

| | 2019年度 ($n$ = 74) | | 2020年度 ($n$ = 83) | |
|---|---|---|---|---|
| | $z$ | $r$ | $z$ | $r$ |
| 1 英語を勉強することは楽しい | −5.58** | .46 | −3.48** | .28 |
| 2 英語を勉強することは必要だ | −2.14* | .18 | − .44 | |
| 01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか | −5.35** | .44 | −3.08** | .24 |
| 02 単語をどのように発音したらよいかわからない | −3.73** | .31 | −1.17 | |
| 03 単語の発音を覚えるのが難しい | −4.36** | .36 | − .92 | |
| 04 単語の綴りを覚えるのが難しい | −3.13** | .26 | − .88 | |
| 05 単語の意味を覚えるのが難しい | −4.00** | .33 | − .04 | |
| 06 文法が難しい | −2.94** | .24 | −2.66** | .21 |
| 07 英語の文を書くのが難しい | −4.26** | .35 | −1.92 | |
| 08 英語の文章を音読する時に、どのように発音してよいのかがわからない | −5.36** | .44 | −1.17 | |
| 09 英語の文章を読んで理解するのが難しい | −4.67** | .38 | −3.67** | .28 |
| 10 英語を話すのが難しい | −3.29** | .27 | − .94 | |
| 11 英語を聞き取るのが難しい | −4.43** | .36 | −3.43** | .27 |
| 12 外国、異文化に興味がもてない | −1.47 | | − .13 | |
| 13 英語のテストで思うような点数がとれない | −5.88** | .48 | −4.80** | .37 |
| 14 英語に対して抵抗感がある | −3.16** | .26 | − .52 | |
| 15 英語に限らず自分からすすんで勉強する習慣がない | −2.24* | .18 | −1.40 | |
| 16 英語に限らず、勉強する気がわかない | −1.27 | | − .87 | |

$z$ = ウィルコクソンの符号付順位和検定の $z$ 値，$r$ = 効果量　* $p < .05$，** $p < .01$

ソンの符号付順位和検定を行った（表５）。

2019年度は、18項目のうち「12 外国、異文化に興味がもてない」、「16 英語に限らず、勉強する気がわかない」を除く16項目で有意な差が認められた。「1 英語を勉強することは楽しい」、「2 英語を勉強することは必要だ」の２項目は有意に高まった。「01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」は、苦手意識が改善されたことを示している。質問03から質問11、質問13から質問15の13項目は、「難しい」と感じる度合いが低くなった。効果量を見ると、質問１（$r$ = .46）、質問01（$r$ = .44）、質問13（$r$ = .48）において特に変容が大きかったことを示している。

2020年度は、18項目のうち「1 英語を勉強することは楽しい」、「01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」、「06 文法が難しい」、「09 英語の文章を読んで理解するのが難しい」、「11 英語を聞き取るのが難しい」、「13 英語のテストで思うような点数がとれない」の６項目において有意な差が見られた。効果量はいずれも中程度で、2019年度の効果量を上回ることはなかった。

### 4-2　自由記述

#### 4-2-1　2020年度前期授業の振り返り

質問2に対して147人のうち97人から回答があった。前期の授業を受けた英語学習についての変化を記述の内容によって分類した。複数の要素を含む記述もあった（図2）。

「理解しようとすれば理解できたので英語が楽しいと思えるようになりました」など、情意面の変化を挙げる学生が最も多かった（22人）。次いで、「自分なりに考えてわからないところは積極的に調べるようになった」、「発音練習も自主的にするようになりました」など、学習に主体的に取り組む良好な態度が見られた（17人）。さらに、発音の向上（9人）、円滑な音読（8人）、リスニング力の向上（7人）、英語を話す機会の増加（5人）、読み書きへの好影響（1人）、記憶の促進（9人）、理解度の高まり（8人）、イメージの喚起（3人）が挙げられた。「町の看板などに書いてある英語に反応してしまう」、「英語をノリでちょくちょく家で話すようになりました」、「英語のニュースや番組を見たときに話している内容を聞き取ることができた」、「バイトしているところに海外の人がいます。英語ではなくその他の国の言葉も使ってみたいと感じた」のように授業外への波及効果も見られた。その他、「偏りのない範囲で英語を学べた」など4技能の総合的な学修につながったと感じている記述もあった。

質問3において、オンライン授業に言及したものが14件あった。「小中高と英語の授業があまり楽しくなかったけれど大学ではオンラインだけど、わかりやすく、楽しく受けれています」など肯定的な評価の一方、「文字を読んで一人で理解を深めることが難しく、先生の解説を直接聞きたいなという風に思います。コロナで後期もオンラインとなれば、せめてZOOMなどでの授業を希望します。最少人数でもよいので登校し早く学生友達を作り、意見交換ができるようになりたいです」と双方向型オンライン授業や対面授業を望む記述が9件あった。

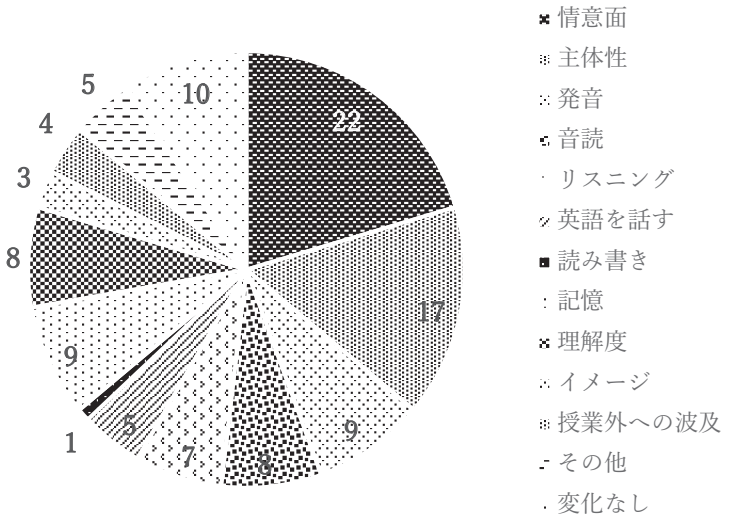


図2　2020年度前期の授業における変容

### 4-2-2　2020年度後期授業の振り返り

オンラインを利用した多読・多聴に参加した学生は、147人のうち104人（71％）であった。質問1に対して83人から回答が得られた。そのうち13人は「課題として出ていることを知らなかった」「使い方がわからなかった」等の理由で参加しなかった。参加した学生からは、「授業では時間が決まっていたが、オンラインでは何回も聞き直し読み直せたので自分が理解するまで読んだり聞いたりすることができた」、「オンラインでも普段と変わらず読めたし、クイズがあって面白かったです」など利点を伝える感想と、「課題の仕組みがいまいち把握できなくて難しかった」などの操作の難しさを訴える感想に分かれた。「対面授業で多読をしていた時のほうが集中できよかった」など、対面授業での多読・多聴を好むと思われる感想が3件あった。

質問2に対しては、54人がコメントを記述した。「オンラインでも自分たちが勉強しやすいようにしてくれてすごく助かりました」、「対面式でもオンラインでも授業内容が変わらなかったので充実しました」と評価するコメントの他に、「オンライン授業は対面授業と比べて自分のペースで取り組めるため投げ出さず取り組むことができた」とオンライン授業のメリットを挙げるコメントもあった。「対面授業は、すぐに質問しやすい。オンライン授業は緊張しないから授業を受けやすい」と比較するものもあった。「オンラインよりも対面の方が授業内容が身につくと感じた」、「オンラインではできることが限られているし、英語を使っての会話などの練習ができないので、対面の方がよかったです」など、18人の学生が対面授業を望むと記述している。

## 5．考察

質問紙調査の結果から、1年を通して対面授業を受けた2019年度の1年生と3分の2の授業をオンデマンド型オンライン授業で受けた2020年度の1年生は、入学時の苦手意識に関わる16項目において差がなかった。しかしながら30回の授業後は、16項目のうち11項目で有意な差が認められ、1年間対面授業を受けた学生の苦手意識がより軽減された。それぞれの年度の苦手意識の変化を見ると、2019年度は16項目のうち14項目で有意差が認められたのに対し、2020年度は5項目に限定された。また変化の大きさも2019年度に比べて小さかった。このような結果になった一因を考えるために、学生の振り返りの記述から今年度に実施したオンデマンド型オンライン授業に特徴的だと思われたことを挙げる。

4-1で述べたように、質問紙調査の「01 あなたは英語が得意ですか、苦手ですか」の結果から、オンライン授業は苦手意識の強い学生には効果が小さい一方、学生に自律的な学習を促す効果が見られた。4-2-1に「積極的に」「自主的に」という学生の言葉を挙げた。このことは、表現は異なるが、「自分で学習しようとするようになった」、「分からない単語があれば調べたり、テスト後解説を見て復習を行うなど問題の文章の理解に努めるようになりました」、「お手本により似た発音の英語を言えるようになりたいと思いながら課題に取り組むようになりました」などの多くの記述からも、学生が主体的に学び、質を高めようとする姿が読み取れた。一方で、前期授業振り返りの質問3に「文字を読んで一人で理解を深めること

が難しく、先生の解説を直接聞きたい」などの回答があり、文字から理解することが難しい学生が少なからずいることへの配慮も必要であった。資料配信によるオンデマンド型オンライン授業では、自律的な学習者へと育つ学生がいる一方で、学習に支援が必要な学生や、「勉強を頑張ろうと思ったけど、最低限の勉強しかしてこなかった」というような学生の英語力を一定の水準まで引き上げることができなかったと推測される。オンデマンド型オンライン授業で行った本実践では、学習の質や深さを管理することが対面授業よりも難しかった。

オンデマンド型オンライン授業は、個々の学生の英語力や状況に応じた学修を担保することもできた。前期振り返りの質問１に、「英語を読むのではなく聞いたままを発音するので、英語を聞く練習にもなるし正しい発音ができるのでいい」、「提出するために何回も聴いて、音読して、を繰り返すことによって、その英文を覚えられたし、英文を読むのにも慣れた」、「聴いた英文を自分が発音したのを録音して聞き直すことができるので癖などがわかって改善できた部分もあった」、「気づいたら何十回も録音し直している時もありました」、「英語のスピードや発音には苦戦して何度も撮り直していましたが徐々に撮り直しの回数も減ってきたのでこのまま続けたい」などの記述が見られた。対面授業の中では、それぞれの学生のわからない単語に合わせて練習することは難しい。また英語が苦手だと感じていると、周囲に自分の発音を聞かれたくないと学生が考えることもあるだろう。学生が一人で英語の音声を聴きながら納得がいくまで練習をしたことは、予想以上の効果だった。学生は、リピーティングと発音の改善、円滑な音読、リスニング力の向上、記憶しやすさを結び付けていることが多く、自分の成長が実感できたことが次への意欲につながったようである。英文を理解する他の活動と相まって、4-2-1で挙げたような変容が見られたと考える。

対面授業を経験し学生がどのように感じたか、後期振り返りの質問２の記述を見たい。「やはり対面授業の方がオンラインに比べて直接先生から学ぶことができたり、ほかの人と交流できるので、理解も深めやすかった」、「授業を受けて相手への英語で伝えるやり方などを学べてとても良かった」、「もっと周りの人と問題の回答を共有しながら学べたらなと思いました」などの記述があった。活動に制約があり、60分に制限されたけれども、「英語で伝える」ことは対面授業だから可能であった。「英語学習で大切なことは失敗することが大切だとわかりました。恥ずかしがらずにもっと声を出していきたい」という記述もあった。英語で伝える場面をつくることは、失敗しながら学ぶ機会を与えることでもあった。2019年度との差は、英語によるコミュニケーションにおける成功体験や失敗を乗り越える体験、そこから得られる学習やコミュニケーションへの意欲の差ではないだろうか。12月以降、再びオンデマンド型オンライン授業に戻った。4-2で挙げたように、学生はオンライン授業の良さを感じながらも、教員との、そして学生間のコミュニケーションを必要としている。

本学１年生は、リーディング中心の英語Ⅰ A・Bだけでなく、文法を中心とした総合英語である英語Ⅱ A・Bの授業も受講する。その影響を排除することはできない。また、回答数を見ると、全体を反映しているとは言い難い。質問紙調査の協力者は４月と翌年１月の両方に参加していなければならず、2019年度は受講者の73.3％であったが、授業支援システムを利用して調査を実施した2020年度は56.5％にとどまった。さらに、入学早々にオンライン授業になった不安の中で、コンピューターやスマートフォンと向き合って苦手意識のある英語に取り組むことは負荷が高かったであろう。あるクラスの英語Ⅰ Aの授業支援システムのア

クセスログを分析すると、受講者32人のうち、スマホ版からのアクセスが100％の学生が6人、90％台の学生が6人であった。音声の録音に生活音が入ることを懸念する学生もいた。単に英語学習だけの問題ではないことも考慮せねばならないだろう。

もしインターネットがなかったら、授業支援システムがなかったら、スマートフォンがなかったら、この危機的な状況下でどのようにして授業をしたのだろう。そう考えると、授業を立ち上げる以前に多くの人に支えられていたことに思いが及ぶ[6)]。大阪商業大学就業力育成支援委員会（2020）によると、「語学に関する勉強」に力をいれたいと考える学生は2019年本学入学者の80％に上る（p. 6）。さらに良い授業を提供したい。オンライン授業が始まった頃、筆者はウェブ会議システムに及び腰であったが、この1年で経験値も増えた。今ならペア学習やグループワークもオンラインで可能である。本学のみに限らず、情報社会の中で生きていく全ての学生が、個々の経済的な条件や通信環境に関係なく同時双方向型オンライン授業を含む教育にアクセスできる社会整備が強く望まれる。

## 参考文献


ベネッセ教育総合研究所（2010）.『第1回中学校の英語学習に関する基本調査報告書【教員調査・生徒調査】［2009］』ベネッセ教育総合研究所 <https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=3186>

吹原顕子.（2017）. 英語学習に苦手意識のある大学生の自己効力感における変化―学習者の声をもとに―.『英語授業研究学会第29回全国大会発表資料集』, 89-90.

吹原顕子.（2020）. 英語ⅠAにおけるオンライン授業の取り組み. 大阪商業大学FDニューズレター, *21*, 8-14.

吹原顕子.（2021）.「英語ⅠB」授業におけるmanabaの活用―オンライン教材の無料体験を利用した多読・多聴の活動―.『授業支援システム運用報告書【2020年度】』大阪商業大学情報教育委員会・教務課.

Heyer, S.（2013）. *Easy true stories: A picture-based beginning reader*（2nd ed.）. New York: Pearson Education.

Heyer, S.（2019）. *True stories: Level 1A, silver edition*. New York: Pearson Education.

加賀田哲也・小磯かをる・前田和彦.（2007）. 英語学習についての調査研究―大学生を対象に―『大阪商業大学論集』, *2*(*4*), 13-32.

大阪商業大学就業力育成支援委員会（就業力測定委員会）.（2020）.『就業力育成支援プログラム報告書【第2期データ分析編】データから見る学生の姿と見えてきた課題《2011年度～2019年度》』大阪商業大学


6）本学は、2020年6月にオンライン授業に対応する学修環境整備・通信費等に充当する費用として全学生に一律30,000円の修学支援金を支給するなど、修学支援、経済支援を行った。

【付表】　英語学習への苦手意識等に関する質問紙

| | | そう思わない | あまりそう思わない | どちらとも言えない | まあそう思う | そう思う |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 英語を勉強することは楽しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 英語を勉強することは必要だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | | とても苦手 | やや苦手 | どちらとも言えない | やや得意 | とても得意 |
| 01 | あなたは英語が得意ですか、苦手ですか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | | まったくあてはまらない | あまりあてはまらない | どちらとも言えない | まああてはまる | とてもよくあてはまる |
| 02 | 単語をどのように発音したらよいかわからない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 03 | 単語の発音を覚えるのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 04 | 単語の綴りを覚えるのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 05 | 単語の意味を覚えるのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 06 | 文法が難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 07 | 英語の文を書くのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 08 | 英語の文章を音読する時に、どのように発音してよいのかがわからない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 09 | 英語の文章を読んで理解するのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10 | 英語を話すのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11 | 英語を聞き取るのが難しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12 | 外国、異文化に興味がもてない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13 | 英語のテストで思うような点数がとれない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14 | 英語に対して抵抗感がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15 | 英語に限らず自分からすすんで勉強する習慣がない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16 | 英語に限らず、勉強する気がわかない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |